

版画工房アーティーが専門に制作するジクレー版画(デジタル版画)を切り口に、様々なアーティストや画廊にインタビュする本コーナー。  
今回は画家の篠田教夫さんに、「ジクレー版画の現状」についてお話を伺ってきました。



「那智瀧図」2017年 技法名…アーカイバル®

## 篠田 教夫 × Artie FINE ART WORKS

**アーティー** 篠田さんとは一作目の版画「孕む手」を2003年にご依頼頂いて、それから現在まで長いお付き合いとなりました。アーティー設立は2001年。まさにジクレー版画(デジタル版画)の黎明期から現在まで、その変遷の中に作家として立ち会っている存在かと思えます。篠田さんはジクレー版画について、どのようにお感じになっていますか？

**篠田教夫** アフリカの未開の地のジャングルでは、写真を撮られると命を取られると、思っている部族がいますよね？それと似た現象がジクレー版画にも起きています。

**アーティー** いきなり衝撃的なお話ですね！もう少し詳しく聞かせてもらえますか？

**篠田** 日本の美術界では、画廊や学芸員含めいまだに「版画をつくと原画の価値が下がる」と思う人が多いですね。まさに、原画から版画を作るとは、部族の人が「命を奪われてしまう」と思っているのと同じ発想です。でも本当は真逆でしょう。版画が人々の手に渡ること、多くの人が作品を見る機会が増える。そうすると「この原画は誰が持っているの？どこにあるの？」となり、本来なら価値が上がるはずなのです。

**アーティー** なるほど。私の知り合いのアーティストが昔このようなことを言ってい

ました。「世界の名だたる巨匠の原画はせいぜい数十枚か数百枚なのに、世界中の人がその作品を知っている。それはなぜ分かるか？この世に印刷物があって、その印刷されたものに人々が触れることで、その作品がこの世にあることを知るのだ。そしてその原画を見たいがために、世界中の人が美術館に押し掛ける。作品が知れ渡り有名になるのは印刷物のおかげだよ」と。

**篠田** その気持ちよくわかります。原画はどこまで行っても1点しかありませんからね。その原画も、作家のもとを離れてしまうと何も残らない。この空洞感は結構つらいですよ。

僕は今から20年くらい前にコンビニのコピーに出会ってとても感動してね。あれほどの年月をかけたものが、たったの10円で同じようなものがプリントされてく

る。最初は「版画」という発想自体がなかったし、コピーの目新しさが面白かったのだけど、他のものを見ているうちに目が肥えてきた。そうするうちにジクレー版画(デジタル版画)というものがこの世にあることを知ってアーティーさんにたどり着いたわけです。

**アーティー** 弊社にいらつしやるまでに3軒回られたのですよね。

**篠田** そうです。御社の職人気質の雰囲気は信用できそうだと直感しました。私の場合は版画工房にアーティスト性は求めていないのです。お願いしたことをきっちり表現してくれる、その職人性を信用しています。

ジクレー版画は今、端境期といえる時期にありますよね。社会の認識が「ジクレー版画」複製画」としか捉えていない。でも様々な材料で描かれた原画と特殊インクで刷られた版画では全く別のものですよね。やはりジクレー版画にはインクで表現された独特の良さがあると感じています。

**アーティー** 私どものジクレー版画はアーカイバル®として商標登録し制作しています。これは複製やレプリカと捉われやすいジクレーのイメージから脱却したくて、「創作版画」の意味を込めているのです。作家と工房が試行錯誤しながら、版画らしい質感を求め、ひとつの作品として創作しています。複製を超えた芸術品を作家のみならずと作り上げたいと切に願っていると思います。

**篠田** アーカイバル®としての自立性を目指されているのですね。これから50年、100年経って、他の版画技法と同じくら



個展会場風景。原画6点のほか、アーカイバル®版画が22点並んだ。

いの年月が経った頃、今のジクレー版画についてはアーカイバル®のありようが問われるのではないのでしょうか？

アーティーさんの工房へは、第一線で画家として活躍しながらも、挑戦を厭わない様々な作家さんが版画制作でいらしてすよね。私も含め、そういった方たちが先頭を切ることで、この保守的な現状を切り開いていきたいと思っています。

**アーティー** 未開の地のジャングルのお話のときはどういった展開になるのかドキドキしましたが、興味深いお話が伺えてよかったです。これからもどうぞよろしくお願ひいたします！

(2018年5月)

篠田教夫個展会場「永井画廊」にて

構成 版画工房アーティー

### P R O F I L E

#### 版画工房アーティー

美術専門の版画印刷を扱う「版画工房アーティー」。代表の加藤泉は1987年に米ロサンゼルスでシルクスクリン工房を設立。12年間アメリカンアートの制作に携わる。2001年に帰国後、東京に「版画工房アーティー」を設立。アーティー独自のジクレー版画「アーカイバル®」を商標登録。版画を原画と同等に扱い、作家と工房が相互に意見交換することで、互いの想像力の一步先の表現力を目指している。制作している版画の8割以上に、モデリングペースト、エアブラシなどの特殊効果を施し、一般的な「版画」の概念を超える、斬新な表現に果敢に挑戦しつづけている。

東京都港区六本木 7-21-22 セイコー六本木ビル 4F  
(国立新美術館 正門 徒歩1分)

営業時間：平日9時～17時30分 定休日：土日祝日

Tel：03-6721-1850 E-mail：info@artie.co.jp Web：https://artie.co.jp

#### 篠田 教夫 (しのだ・のりお)

1947年神奈川県生まれ。鉛筆画家としてトップの実力を持つ篠田教夫氏。サザエや二枚貝などの静物をモチーフに、圧倒的な描写力で表現した鉛筆画を発表。2008年「神と仏の道を歩く」(集英社新書)では社寺の作画と監修を務めた。精神性の高い作品を発表し、近年ますます評価が高まっている。最新作「那智瀧図」では動感のある風景画で新境地を開いた。

【取り扱い画廊】

永井画廊・靖山画廊・Gallery Suchi

【展覧会】

篠田教夫-祈りの道-展 「鉛筆画とアーカイバル 版画」

6月、7月の土・日

場所：永井画廊 立川ギャラリー ※アーカイバル®ジクレー版画のみ展示

住所：東京都立川市富士見町 1-25-24 NISHI ビル 4 F

Tel：080-9573-5655